

一見 勝之三重県知事インタビュー

三重県の魅力を広くアピールして 観光・産業の振興を図っていききたい

観光資源が豊富で、国内外から人を引き付ける魅力のある三重県。一見勝之氏が知事に就任して1年4カ月が経過した。この間、一見知事は174万の県民のために様々な施策を打ち出すとともに、昨秋には10年先を見据え、新しい総合計画「強じんな美（うま）し国ビジョンみえ」と「みえ元気プラン」をスタートさせた。「県政運営における自分の軸が明確に分かってきました」と語る知事に課題や将来展望を聞いた。（聞き手は塚本隆・本誌編集長）

——おとし9月に就任されました。所感をお話してください。

一見知事 就任直後、一番の取組は新型コロナウイルス感染症対策でした。第6波の備えをやらなきゃ、と病院に行くなど走り回りました。その後、いったん収まりましたが、昨年1月には第6波に入り、再び対応に追われましたね。そのほか、三重県をどう運営していくのかを考え、10月に、10年間の長期計画「強じんな美し国ビジョンみえ」と5年間の中期計画「みえ元気プラン」を定めることができました。計画について議論する中で、私自身も今後県政運営をしていく自分の軸が明確に分かってきたと感じました。今年につながる話としては、6月に志摩市でG7交通大臣会合の開催が決まりました。2016年5月にG7首脳会議（伊勢志摩サミット）が開催された場所でG7各国の交通担当大臣をお迎えできることは非常にありがたく、大きなポイントだと思います。また、昨年11月にはリニア中央新幹線の三重県内の駅位置について、亀山市内で一定の絞り込みを行い、JR東海に示しました。いずれも三重県が元気になる契機にしたいですね。

——三重県の魅力、特徴をどう捉えていますか。

一見 県内には伊勢神宮や世界遺産の熊野古道があり、伊賀流忍者は世界的な観光コンテン

ツですし、鈴鹿サーキットやナガシマスパーランドもあります。北から南まで、食材を含めて観光資源は豊富です。これを生かして多くの観光客を呼びたいと思っています。三重県人は優しいですが、どちらかというとおとなしく、一歩引いて前に出ないタイプが多いように思います。しかし、観光に関しては、前に出るくらいの気持ちが必要で、首都圏のJR新宿駅や東京メトロ大手町駅で三重県をアピールする広告を3月末まで掲出します。

——観光客誘致では関東圏が課題ですか。

一見 そうなんです。課題は関東圏からの観光客が少ないことと、宿泊者数が少ないことです。コロナ前は年間4,000万人が来ていましたが、中部圏と近畿圏からがいずれも全体の3割で、残りが県内、関東からです。特に関東からの観光客はコロナ前から落ち込んでいます。宿泊は平均1.2泊と全国43位で、外国人宿泊者の割合も同42位と低迷していて、周遊型のルートができていないのも課題です。対策として熊野古道の長期滞在型体験ツアー、志摩の海女漁を見て、とれたての食材を味わってもらうなどして宿泊者を増やしたいと考えています。

——新しい総合計画での重点施策は。

一見 中期計画では防災、コロナ対応、観光振興など「7つの挑戦」を掲げていますが、県

政で一番大事なのは県民の命を守る防災減災やコロナなどの対策です。そして、それと同じくらい重要なのが、子どもの豊かで幸せな成長を実現していくことです。次に重要なのが、観光や農林水産業などの産業を振興していくことです。その他にも文化・スポーツ、福祉など取り組むべき施策は多岐にわたりますが、これらをまとめて考えるべきは人口減少対策で、この5年で2.5%人口が減少しています。若い人の流出も含めて人口減少を食い止めるため、子育て環境の整備、雇用の創出、賑わいの創出、そして豊かな自然環境下での癒しなどを推進します。子どもの豊かな育ちでは虐待防止の取組や、いじめゼロではなく「いじめ見逃しゼロ」の視点も重視したいじめ対策、人口減少の観点から不妊治療では県独自の助成もしています。

——東海地方初の県立の夜間中学を開設します。教育についてのお考えを。

一見 教育問題は幅広いです。いじめは水面下に潜ってしまうので、見逃さないよう注意が必要です。そこで、知事部局と教育委員会で一緒に考えていく体制を整備し、初動対応の迅速化など、いじめ対策の具体的方法を打ち出したところです。教育では、何よりも自己肯定感が持てる教育を進めてほしいと話しています。三重県は肯定感を持っている子どもが令和3年度より令和4年度の方が多くなったというデータがありますので、さらに進めていくべきだと思います。先生の働き方改革も課題で、議論していかなくてはなりません。夜間中学は令和7年度に開校する予定で、今年6月には設置場所を選定し、学び直しや中学に行けなかった人の期待に応えたいですね。

——海上保安庁次長、国土交通省自動車局長など要職を歴任されています。国家公務員の経験を知事としてどう生かされていますか。

一見 国の仕事はどこでどう言えば動くかなど十分わかっています。コロナでも「BA.5対策強化宣言」は第7波で全国的に出されましたが、宣言の仕組みは三重県から提言したもので、貢献できたかなと思います。G7交通大臣会合



一見 勝之（いちみ・かつゆき）亀山市出身。1986年東京大卒、運輸省（現国土交通省）入省。94年国際観光振興会パリ事務所次長、2006年国土交通省大臣秘書官、18年海上保安庁次長、19年国土交通省自動車局長。21年9月から現職。

の誘致も国土交通省で働いた経験を生かすことができました。知事として思ったのは、様々な出来事は地方で起こっているということです。霞が関だけでは分からないことが多いので、地方で対応しつつ正確な情報を霞が関に伝え、国として対策をとってもらうことが重要です。安全保障も例外ではありません。三重県の企業が海外で紛争に巻き込まれた時、どう避難してもらうか、さらにミサイルへの対応も考えておく必要があります。三重県の安全確保と成長のために国と歩調を合わせながら、広い視野で見たいですね。

——今年の抱負をお聞かせください。

一見 昨年1年間、県民の皆さんと頑張って三重県を前に、とやってきました。今年もこれを進めていこうと思っています。観光、産業の振興、また、半導体もクローズアップされてきます。三重県の良さを国内外に打ち出していきたいと考えています。

——ありがとうございました。